

成·高

SEIJU

2007年
第38卷

冬 号





一周忌から一年を経た平成十八年十二月十二日、当山釈迦殿では大圓大和尚の三回忌がつつがなく執り行われました。当日は、大和尚に縁のあるご尊宿のご寺院様、教区のご寺院様をはじめ、総代・役員のみなさまが善光寺を訪れ、亡き大圓大和尚の冥福を祈り、また、在りし日の思い出に浸りました。「善光寺が滞りなく本日を迎えることができたことは、師匠の余徳と非常に感謝しております。さらにこの一年間、多くの方々にご指導をいただき、改めて人々との繋がりの大切さを感じた一年だったと思います」と、博志住職の挨拶ではご臨席の方々から感謝を伝えていました。



導師本寺光真寺黒田俊雄老師



壁画に描かれた大圓大和尚と博志住職



多くのご寺院様の読経に
包まれた厳粛な空気の中で



導師様にお礼のお拝をする博志住職



ご寺院様によるご焼香



大圓大和尚に縁の深いみなさまにお集まりいただいて



大乘寺山主
東隆眞老師

黒田さんと回ったアメリカのことを思い出しました。これから三十年も経てば仏教や禅の中心はアメリカやヨーロッパに移るのではないかと予感しています。それを広げてきた大きな力は前角老師と黒田老師です。我々も新しい時代に向けてどういうふうになければならないか、いまさらのごとく感じています。



駒澤大学理事
宮本延雄様

『成寿』を読み直すと、大圓大和尚はなかなか普通ではできない、勇気と素晴らしい決断力を持ち、そして行動に移した人、というのが実感です。そして、その背景に和合の心、慈悲の心がみなぎっているからこそ、みんながそれを信じ、それに従っていくのです。檀信徒の方々はこの魅力についていくのだとつくづく思いました。



埼玉・能仁寺住職
萩野映明老師

思い出といえば、それがあり過ぎるほど、大圓和尚とはいろいろなご縁がありました。ここにおられる東老師とお親しくなれたのも大圓和尚の影響です。そう考えると寂しいですよ。私の寺にもこれと同じ大圓和尚の写真を飾っています。いつもその活力、パワーを感じています。



正翁寺住職
篁素明老師

育英会のことなどで、なかなか大圓和尚の志が理解されず、そうしたときに彼の愚痴を聞いたり、「どうしたらいい?」と聞かれて、その度にいろいろと答えていました。いろいろなエピソードが浮かんできます。

そんな大圓和尚がこのお寺を、あるいはみなさまをこれからお守りいただけるように、祈念しております。



故人を偲びながらの設齋